

幼児が歌を覚える過程についての一考察 —幼児の音楽的要素に対する興味を手がかりとして—

幼児教育選修 村松良衣

I 研究の背景と目的

歌唱活動において、幼児は初めて聴いた歌をすぐに口ずさむことがある。しかし、1曲全体を歌うのではなく、ある部分だけに限定されることが多い。では、なぜ歌の特定部分だけを口ずさむのだろうか。また、どのような過程を経て歌を覚えていくのだろうか。

本研究では、幼児の音楽的要素に対する興味を手がかりとして、幼児が初めて聴いた歌のどの箇所から覚え、歌えるようになっていくかを明らかにすることを目的とする。

II 幼児が歌を覚えるということ

(1) 幼児の発達と年齢別に見る歌・音楽活動との関係

矢田部(2010)は、現役保育者によるアンケートで上位を占めた現場推薦の曲を中心に『年齢別・12か月 こどものうた 154』を編集しており、年齢別に表1のような歌を分類している。

表1 保育において年齢ごとに歌われる歌の例

年齢	歌
3歳	はをみがきましょう、かたつむり、きらきらぼし、まつぼっくり
4歳	せんせいとおともだち、めだかのがっこう、たなばたさま、そらにらくがきかきたいな
5歳	さんぽ、にじ、おばけなんてないさ、しょうじょうじのためきばやし、きのこ、カレンダーマーチ、さよならぼくたちのほいくえん(ようちえん)

3歳ころには、周囲への関心や注意力、観察力が伸び、食事・排泄・衣服の着脱などを自分でやろうとするという発達がみられる。そのため、身近な動植物や自然、食べ物が題材になっている歌や、「はをみがきましょう」のように基本的な生活習慣を題材にした歌がよく歌われる。

おおむね4歳ころでは自分と他人との区別がはっきりとし、先生や友達といった自分以外の人とのかわりが豊かになることにより、仲間とのつながり

が深くなっていく。また、歌詞の内容を理解してイメージをふくらませながら歌うことを楽しむようになる。そのため、歌の題材には、友達や先生といった周囲の人とのかかわり、想像することを楽しむ内容が含まれている。また、4歳児では複雑なリズムで構成された歌を歌うことができ、音高の幅が広がり、リズムカルな歌が多くなっている。

5歳ころになると、いろいろなジャンルの歌に興味をもつようになり、4歳児よりも長い歌を覚えることができる。語彙が増えることにより歌詞の内容を感じ取って自分の気持ちを表現する。卒園を控え、小学生になることへの意欲や期待をもつようになり、このような節目を題材とした歌が増えることも、年長児ならではの特徴であると考えられる。また、「おばけなんてないさ」のように5番まで歌詞があるもの、ゆったりとしたリズムや弾むようなリズムなど、様々な曲調の歌が歌われている。「しょうじょうじのためきばやし」や「きのこ」のように、間奏があったり、歌の途中や最後には曲の雰囲気が変わったりする歌もある。

(2) 発達と歌から考える、歌に対する幼児の興味

同じ季節の歌であっても年齢によって歌われる歌は異なる。3歳児では、語りかけるようにゆったりとした雰囲気があり、同じようなリズムパターンの繰り返りで構成されている。それが年齢が上がるにつれて、途中でリズムパターンが変化したり、テンポが速く休符やアクセントが入ったりするなど軽快な曲調の歌がよく歌われるようになる。これらのことから、幼児は発達に応じて歌に対する興味が変わるということがいえる。

4歳児で歌われる歌は、5歳児にとっては「つまらない」と感じられることもある。5・6歳ころになると、心肺機能の高まりから体を活発に動かすようになるとともに、試行錯誤しながらも満足いくまで楽しもうとする。このような身体的・精神的発達が、5歳児が好むテンポやリズムと関連していると考えられる。

さらに、歌の題材となっている動物などが嫌いであるために、「アイアイ」「かたつむり」などの歌を

嫌う幼児が見られたと述べている研究もある。このことから、歌の中に好きな言葉や動物などが含まれていると、幼児は歌いたいと思うのではないかと考えられる。また、アニメの主題歌のような、テンポが速くリズムカルで歌詞の長い歌は、なかなかすぐに覚えて歌えるようにはならず、幼児が歌うのには難しいのではないかとと思われる。しかし、実際には幼児は歌えてしまう。5歳児で16小節程度の歌を覚えて歌えるといわれているが、幼児は好きなアニメの主題歌などを繰り返し聴くことで、16小節以上の歌を覚えて歌えるようになる。「好きなアニメの歌だから、早く歌を覚えて歌えるようになりたい」、「歌を全部歌えるようになって達成感を味わいたい」という幼児の意欲も、歌を歌うことに大きな影響を与えていると考えられる。しかし、幼児は長い歌を一度に覚えることはできない。歌の中で幼児が最初に歌えるようになるのは、歌の中の幼児が聴き取れる部分、幼児にとって歌いやすい部分、覚えやすい部分などであると考えられる。このことから、幼児がすぐに歌える部分には、歌の音楽的要素に対する幼児の興味が影響しているとも考えられるのではないだろうか。

(3)音楽的要素の特徴と認知・記憶との関係

リズム、歌詞（言葉）、メロディの3つの音楽的要素の関係性は歌の認知・記憶に影響を与える。

①リズムについて

タイやシンクペーションを含むリズムが複雑な歌であっても、グループ化がしやすければ認知しやすく、記憶されやすい。

②リズムと歌詞（言葉）の関係について

リズムと歌詞は密接に結びついているといわれている。この根拠は、リズムの間違いと歌詞の間違いは多くの場合同時に起こったことからいわれている。

③メロディと歌詞（言葉）の関係について

メロディと言葉は統合して記憶されている場合が多く、メロディの有無が言葉の再生を助けたり、言葉の有無が旋律の再生を助けたりする。また、記憶におけるメロディと言葉の統合は、若年者や専門的な音楽訓練の少ない者ほどその度合いが大きい。さらに、詞の prosodic pattern（アクセント、イントネーション、等の韻律様式）とメロディが合致している場合、詞が想起、認知され易い。

また、認知の速さに関しては、一貫してメロディ

が遅く、メロディによる歌の認知はある程度の処理時間が必要であるとされ、詞が加わった歌は一貫してメロディよりも認知が速い。歌の認知過程では基本的にメロディ処理が遅いため、テンポが速く、識別され易い詞とメロディが相互に強く連結した歌ほど速く認知される。

Ⅲ 幼児を対象とした実践調査

(1)目的

新しい歌を覚えるにあたり、幼児の興味・記憶と音楽的要素の特徴との間にどのような関係がみられるかを明らかにすることを目的とした調査を行なった。そこで、①幼児が気に入った箇所はどこか、②どこからどのような順番で歌を覚えて歌えるようになるかに視点を定めた。

(2)方法

時期：2015年11月11日

場所：O市S幼稚園

対象児：年長児61名（2クラス）

歌唱教材：『かめのえんそく』（新沢としひこ作詞、中川ひろたか作曲）

使用機材：ビデオカメラ、ボイスレコーダー、CDデッキ、ピアノ伴奏を録音したCD、歌を紹介する際に見せるペープサート

保育の流れの中で歌唱活動を行なった後、一人ずつインタビューを実施した。

①歌唱活動

まず、幼児に新しい歌と一緒に覚えて歌う活動であることを説明し、実践者のみがCDの伴奏に合わせて歌を歌った。歌に対する感想を幼児に聞きつつ、次から一緒に歌うことを伝え、幼児とともに歌った。その後、幼児が歌に興味をもち「歌いたい」と思えるように、歌の内容について話し、幼児とともに繰り返し歌う活動を計3回行なった。活動の終わりに、後でどこが気に入ったかを尋ねるインタビューを行なうことを伝えた。

幼児が歌のどの箇所から歌うようになるかを分析するために、ビデオカメラを用いて活動全体を通した幼児の様子を撮影・録音した。

②インタビュー調査

半構造化面接によりインタビューを行なった。質問内容は以下の通りである（表3）。

表3 質問内容

- ・『かめのえんそく』の中で気に入ったところはどこか、歌って教えてくれるか
- ・どうしてそこが気に入ったか

(3)結果と考察

①歌唱活動の結果

歌を初めて聴いたときの幼児の姿と各回ごとの歌を歌えるようになった箇所は以下の通りである(表4, 5)。

表4 歌を初めて聴いたときの幼児の様子

- ・「おかしをつめる」、「もうたべられない」というところで、笑う幼児がいた。
- ・「もうたべられない」というところで、一緒に歌う幼児がいた。
- ・2回目の「のんびりいこう」というところでは、数人の幼児が口ずさんだ。

表5 歌唱活動において歌うようになった箇所

- 1回目:「おかし」、「もうたべられない」、「のんびりいこう」
- 2回目:「えんそくは」、「かめのだいすきな(チョコレート)は」、「とけて」、「だろう」、「まだまだつづく」
- 3回目:最初の「かめの」、「みっかまえから」、「ベタベタとけて」、「いそいでいくと」、「すぐおわるだろう」、「ゆっくりいけば」

3回歌い、歌のほとんどの箇所を歌えるようになった。以上の他にも、実践者や友達が歌う声を聴いてからすぐに追いかけて歌ったり、音を伸ばすところをよく歌ったりするという幼児の姿があった。そのようなときには、「えんそく」、「リュック」、「おかし」、「チョコ(レート)」といった簡単な単語を歌おうとしていた。また、歌の出だしや、歌の前に1小節空く場合に「さん、はい」といった合図がないと、幼児が歌い出すことはできなかった。

②インタビュー調査結果

歌の中で気に入ったところはどこかという質問に対する回答として出てきたキーワードは、大きく分けて「チョコレート」、「のんびりいこう」、「かめの」、の3つとなった(図1)。

「チョコレート」を含む回答をした幼児の理由は、「自分もチョコレートが好きだから」「チョコレートがとけたところがおもしろかったから」の2つに分かれた。しかし、「チョコレート」の部分で歌うことのできる幼児はいなかった。

「のんびりいこう」を含む回答をした幼児の理由は、「歌いやすかった」「簡単だった」「気持ちよさそうだった」「覚えたいと思った」などが挙げられた。また、「のんびりいこう」については、気に入ったところとして歌うことができた幼児が8名おり、この3つの回答の中で、歌って答えることのできた人数が最も多い箇所であった。

「かめの」を含む回答をした幼児の理由は、「ゆるやかだったから」、「歌うと気持ちいいから」、「いつも最初に歌っているから」などが挙げられた。また、気に入ったところとして歌えた幼児が4名いた。

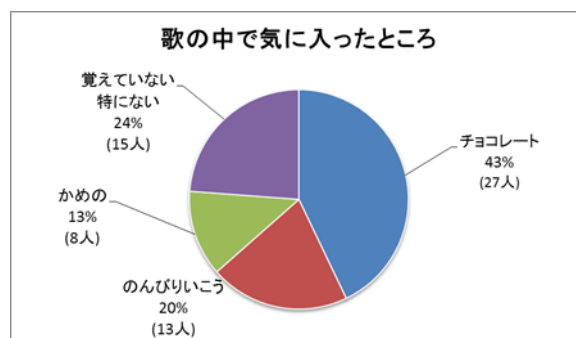


図1 インタビュー結果

チョコレート

のんびりいこう

かめの

楽譜1 キーワード「チョコレート」「のんびりいこう」「かめの」の該当フレーズ

③考察

『チョコレート』のフレーズにおいて最も早く歌うことができたのは、「もうたべられない」である。この部分だけに付点が用いられていることで弾むようなリズムになっており、1小節の中にも音の数が多くなっていることで軽やかな雰囲気が感じられる。

それに対して、「チョコレートは」の部分の間延びした印象を受ける。普段話すときの言葉のリズムと歌のリズムの不一致が起こり、幼児が歌いにくさを感じたと考えられる。

『のんびりいこう』のフレーズでは、言葉のリズムやイントネーションが、メロディの上下動や歌のリズムと合っており、幼児に対する歌の認知のしやすさや歌いやすさに影響を与えたと考えられる。また、付点のあとに音を伸ばすところから、気持ちよさが感じられたと推察できる。曲中でこの箇所が2回繰り返されていることも記憶に影響を与え、インタビュー調査の際に多くの幼児が歌えた結果につながっているといえる。

『かめの』のフレーズは歌い出しの部分である。音楽的特徴としては、付点がい用いられており3度ずつ音が下行する。また、「かめの」と言葉のイントネーションとメロディ・ラインが一致している。付点を伴いながらメロディが下がるところから幼児がゆるやかさを感じ、「歌っていて気持ちいい」という感覚にもつながっていると考えられる。また、このフレーズは歌い出しを含め2回あり、どちらも同じ歌詞、同じメロディであるため、覚えやすさを感じられ、インタビュー調査の際に歌うことができたと考えられる。

IV まとめ

(1)総合考察

実践調査の結果、幼児は、言葉のリズムやイントネーションがメロディの上下動や歌のリズムと合っていることから歌いやすさやを感じ、付点が含まれリズムが弾むところや音を伸ばすところに気持ちよさを感じていることが明らかとなった。このことは、歌詞のアクセントやイントネーションとメロディの関係が認知のしやすさに影響することと、発達によってより複雑なリズムに興味をもつという先行研究を裏付けるものであった。

また、音楽的要素の特徴から、幼児は歌の雰囲気や歌うことへの気持ちよさを感じ取ったり、「歌いたい」「覚えたい」という気持ちを抱いたりすることによって、その箇所から順に覚え歌うようになった。そして、その次には、幼児にとって身近な単語の含まれるフレーズを歌うようになり、すでに覚えた箇所との間を埋めるようにして次第に全曲を歌えるようになっていくという過程が明らかとなった。

(2)保育における歌唱活動への応用として

本研究の成果により、歌の紹介のしかたと歌唱指導について応用することができる。

保育者が幼児に紹介しようとする歌に幼児が興味をもちそうな音楽的要素の特徴が見られるかどうか、選曲の段階で見極めることができる。事前に歌のどのような箇所に興味をもつか予想することで、幼児の興味に合った歌唱活動の方法を考えられるだろう。

また、いつも歌の最初から教えるのではなく、気に入ったところから歌ってみるという方法をとってみるにより、幼児は歌うことに関してより楽しさを感じることも予想される。幼児と興味のあるところをどのように歌うかについて考えたり、5歳児になれば話し合ったりすることにつながるだろう。歌唱活動を中心として幼児の生活における様々な活動に結び付けていきたい。

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説書』、フレーベル館、2008年
- ・渡辺優子 「幼児のわらべうたの短期記憶に関する一考察—音程と音量における歌唱力の発達—」 『新潟青陵学会誌』第8巻第1号、2015年、43頁
- ・石井玲子 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』、保育出版社、2009
- ・水戸博道・岩口摂子・内山恵子 「幼児の歌の記憶」 『宮城教育大学紀要』第41巻
- ・佐々木和・岩口摂子 「子どもの歌唱場面における一考察(2)—子どもの歌の嗜好性は変化するか(4歳児と5歳児の場合)—」
- ・矢田部宏 『年齢別 12ヶ月 こどものうた154』、ひかりのくに、2010年
- ・齊藤陽子・佐久間尚子・石井賢二・水澤英洋 「歌の認知における詞とメロディの役割—歌の認知はなぜ速いのか?—」、心理学研究、2009年、第80巻第5号、405-413頁